

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577700226		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム風花		
所在地	山口県山陽小野田市大字山川90-1		
自己評価作成日	平成22年7月29日	評価結果市町受理日	平成22年12月3日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年8月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(風ユニット)

グループホームの理念「皆に優しく 共に楽しく」地域の中でいつまでも自分らしく生活していける...を目標に年間を通し季節の行事を大切にしています。今年から運営推進会議をきっかけに自治会長や婦人会・地域の方が来られ、おやつを作ったり苑庭管理や野菜づくりと一緒にしています。顔見知りのご近所の方から収穫した野菜が届くようにもなりました。散歩の時は近くの公園掃除、お寺の奉仕作業にも参加。市民祭りは毎年、餅つき・販売をし地域の一人として活躍します。年4回の家族会では多くのご家族の参加があり、広いリビングで餅つきやデッキでバーベキュー、日帰り旅行や一泊旅行もあります。入居間もない利用者様の普段見られないいきいきとした表情や場面を見る事ができています。無農薬の自家製みそを使って品数豊かな食事を提供しています。食器を吟味し季節の食材を使って心のこもった食事をお出ししています。又、スタッフの育成・研修にも力を入れています。サービスの向上に向けて「接遇、一年目・二年目研修があり全員が受け、職員も資格の取得を目指し頑張っています。穏やかな言葉や態度でまずは受容、尊厳を大切に利用者様に接しています。新しく4名様のオムツ外し、環境整備として「トイレの改装」に取り組み、安心して生活できる環境づくりに努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】(共通)

京都から介護アドバイザーを招いて内部研修を行なうなど、熱心に排泄の自立に向けた取り組みをされています。排泄パターンの把握や効果的な誘導・寝具の工夫で、リハビリパンツから布パンツになられた方やトイレで職員二人が介助に携わり、トイレ改修も行ってトイレでの排泄の自立ができるようになった方もおられます。排泄の自立が豊かな表情、散歩の開始、食事介助の軽減などにもつながり、法人内で研究発表をされています。地域とのふれあいの中で生活していけるように家族や地域と連携し、年4回の家族会行事(一泊旅行、バーベキュー大会等)、地域の祭りで餅つき販売、毎月お寺の住職の法話や幼稚園児との交流などをされています。運営推進会議のメンバーの協力もあり、地域に密着したサービスを提供されています。

## サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577700226		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム風花		
所在地	山口県山陽小野田市大字山川90-1		
自己評価作成日	平成22年7月29日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年8月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(花ユニット)

横に座る その人を知る 嘘をつかない ゆっくりと穏やかに」をケアの4つの柱として、家庭的な雰囲気の中で心安らく暮らしを続けていただくことを目指しています。細やかな心遣いや優しい眼差し、何気ない配慮に心がけ、利用者様に話かける時も視線は常に利用者様よりもちょっと下から。会話では「オウム返し」で相手の想いを聞き逃さない、確認して同調します。ご家族の面会も多く、要望や意見をお聞きする機会を作っています。またご家族から季節の野菜を使った簡単料理を教わっています。ご家族との連絡帳を作り日頃の様子等を書き込み、ご家族からもご意見等をいただいています。普段の様子を写真でお伝えするポストカードの郵送を行っています。尊厳を大切に、トイレで排泄が出来る取り組みを半年間かけて取り組んだ結果、バット内排泄だった方がトイレで排泄、紙パンツから布シューズへとなりました。居室に自分だけの空間を持ち、仲のいい方とお隣同士のお付き合いができる環境にも配慮して生活全体を家族のような気持ちでみつめています。看取りを希望される場合は大切な一日一日を利用者様とご家族が過ごしていただけるように支援しています。運営推進会議で防災設備や体制について詳しく説明して、ご家族や地域の方のご理解もいただいています。7月の水害の復旧の折は沢山のご家族のお力をお借りしました。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】(共通)

京都から介護アドバイザーを招いて内部研修を行なうなど、熱心に排泄の自立に向けた取り組みをされています。排泄パターンの把握や効果的な誘導・寝具の工夫で、リハビリパンツから布パンツになられた方やトイレで職員二人が介助に携わり、トイレ改修も行ってトイレでの排泄の自立ができるようになった方もおられます。排泄の自立が豊かな表情、散歩の開始、食事介助の軽減などにもつながり、法人内で研究発表をされています。地域とのふれあいの中で生活していけるように家族や地域と連携し、年4回の家族会行事(一泊旅行、パーベキュー大会等)、地域の祭りで餅つき販売、毎月お寺の住職の法話や幼稚園児との交流などをされています。運営推進会議のメンバーの協力もあり、地域に密着したサービスを提供されています。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	風花メールや書類に事業所独自の理念やケアの4つの柱を入れ、職員全員で理念を共有できるようにしている。また、接遇委員会の研修で言葉かけや姿勢等の指導を受けることにより、日々のサービスに繋げている。	「皆に優しく共に楽しく 地域の中でいつまでも自分らしく生活していける…」という事業所独自の理念をつくり、ユニット会議やカンファレンスなどで話し合っ共有し、理念を実践している。	
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、新人研修やグループホーム勉強会で理念を取り上げ、職員全員の意識付けに努めている。管理者と職員参加の会議に、時々代表に参加してもらい理念から外れないように、考え方の共有、実践に取り組んでいる。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、広報等を回覧して、施設行事のご案内、収穫した無農薬の野菜をご近所にお届けしている。ご近所の方も利用者様の名前を覚えて下さり、お大師様には多くの方から声をかけて頂いている。月に1回地域のお寺からご住職が法話に来て下さる。こちらからも掃除や行事に参加させて頂いている。	自治会に加入し、地域の祭りで餅つき販売、住職の法話、保育園児の来訪などで地域とのつきあいがあり、介護の仕方などを地域に情報提供して地域の人々と交流している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に参加して下さった自治会長や婦人会の方々が風花の行事に参加して下さったり、定期的に苑庭管理にボランティアとして来て下さっており、季節の野菜を利用者様と一緒に育てている。また、ご家庭で育てた野菜も届けてくださる。利用者様手作りのおやつをお届けすることもある。市の祭りに利用者様と参加し餅つき・販売し、交流を深めている。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3	風	事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパーの実習の受け入れや地元の中学生の体験学習、短期大学の学生の研修の場になっている。運営推進会議を通して、民生委員や自治会の方々から認知症高齢者の理解や関わりについて質問・相談を受けている。		
3	花	事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室を月1回開催しており、認知症高齢者についての知識や介護の技術を知って頂いたり、見学希望者には利用者様の生活や環境を見て頂くことで理解に繋げている。地域貢献の一つとして近所の寝太郎神社に散歩の折には、道端のごみ拾いや神社の掃除、公園のトイレ掃除をしている。		
4	風	(3) 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員で自己評価に取り組み、サービスの質の見直しをしている。外部評価の結果は毎月発行の風花メールでご家族にお知らせし運営推進会議でもお知らせしている。前回の結果は会議にて取り上げ今後の改善案について話し合った。	評価の意義を理解し、サービスの向上に役立てている。自己評価書は全職員が記入し検討会議で話し合っ作成している。評価することで自分達のケアを振り返っている。	
4	花	(3) 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	会議で評価の意義と目的を確認し、職員全員で自己評価を一カ月かけて取り組んだ。会議で評価結果の改善点や取り組みについて具体的に案を出しあい取り組んだ。		
5	風	(4) 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し利用者様の状況や生活の様子をパワーポイントや資料でお知らせしている。自治会長の方の声かけにより地域の方々も行事に参加して頂けるようになった。ホームの見学もして頂いて参加者からの質問にもすぐにお答えしている。防災設備についても質問や意見が沢山あり、訓練に活かしている。	自治会長、民生委員、婦人会副会長、地域包括支援センター職員、高齢障害課職員、消防署員、家族、利用者、職員等で2ヶ月に1回開催し、現状報告、行事報告、家族アンケート報告、研修、災害訓練、外部評価報告等で意見交換をしてサービス向上に活かしている。	
5	花	(4) 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年自己評価に取り組み、外部評価を受けることでケアの見直しとなり、サービスの向上に繋げていることを説明、結果もお知らせして意見を頂いている。また、資料や風花メールで利用者様の状況等をお知らせしている。参加された方から水害・火災について多くの意見を頂き、合わせてマニュアルの改定を行った。食事会でアレルギー食やゼリー食の質問には管理栄養士がお答えする等の対応に努めている。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に法人の代表・ケアマネ他多数参加している。ケアマネ協議会が市役所であり、地域包括支援センター・高齢福祉課の職員と共に医療・介護の在り方について研修を行っている。必要に応じて指示・指導を受けている。また、地域のグループホームの勉強会にも参加している。	市とは日頃から連携し、実践報告をしたり、安全・安心の確保について助言をもらい、地域ケア会議等に参加している。市から依頼された施設見学等も受け入れている。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に法人の代表・ケアマネ他多数参加している。ケアマネ協議会が市役所であり、地域包括支援センター・高齢福祉課の職員と共に医療・介護の在り方について研修を行っている。また、地域のグループホームの勉強会にも参加している。		
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約の時には重要説明事項及び契約書で身体拘束の理念や方針をご家族に説明している。マニュアルがあり、身体拘束ゼロについて毎年法人の勉強会とグループホーム勉強会を行っている。玄関はいつも開けており、苑庭にもご自由に出入り花を見られたり、野菜の生長を楽しんでおられる。仲の良い方とお二人で苑の周りを散歩されることもある。	マニュアルがあり、法人の研修会に参加したり復命研修などで全職員が身体拘束の内容や弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は鍵をかけないで見守り、外出を察知したら一緒に散歩をしている。	
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約の時には重要説明事項及び契約書で身体拘束の理念や方針をご家族に説明している。マニュアルがあり、グループホーム勉強会でも取り上げ、身体拘束ゼロの取り組みをしている。玄関はいつも開けており、苑庭にもご自由に出入り花を見られたり、野菜の生長を楽しんでおられる。状態に合わせゆっくりしていただけるソファや場所の工夫をしている。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	風	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加や法人内の指導員により勉強会があり意識して防止に努めている。言葉遣いも含め虐待に繋がる行為が行われていないか職員間で話し合っている。接遇委員会の勉強会では、職員全員がロールプレイングを実施し、実践されているかを委員によりチェック評価をしている。マニュアルもあり、高齢者虐待防止関連法についても学んでいる。		
8	花	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加やグループホーム勉強会・法人の勉強会があり指導を受けている。法人のマニュアルもある。また、ケアにおいては身体的および精神的に虐待がないように全員で注意しあい、意識のないままに虐待や人権無視になっていないかをグループホーム勉強会で意見交換し確認している。虐待につながる言葉遣いでないか確認しあっている。		
9	風	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方はいないが、管理者は外部研修で学んでおり資料を回覧して、ファイルはいつでも見られるようにスタッフルームに置いている。ご家族には必要に応じてこのような制度があることをお伝えできるように資料がある。		
9	花	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んでいる。研修に行った職員は資料を回覧している。ファイルもありいつでも見れる状態にしている。今現在制度が必要な方はいないが必要な時にはご家族にもお伝えできるようにしている。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	風	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や法人相談員が中心となり、重要事項説明・契約書・パンフレットを見て頂きながら丁寧に説明し質問を受けながら疑問点や不安等の相談を受け、理解・納得を図り同意を得ている。退去時の敷金精算もしっかり説明し納得して頂いている。重要事項説明の改定時にはご家族にしっかり説明し理解して頂いている。		
10	花	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはご家族および利用者様に見学して頂いている。契約に関しては担当者が十分に説明を行い、不安や問題点を直接伺うことで理解・納得を図り同意を得ている。リスクについても説明している。入院等による解約の時も利用者様・ご家族の要望に沿うように援助している。改定の際はその都度ご家族に説明し同意を得ている。		
11	風	(7) 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書で相談・要望の受付体制や処理手続きなどを詳しく説明して納得していただいている。日々の会話の中で利用者様の思いや不安をくみ取ることができるように意識している。また、申し送り時や会議で話し合い、運営に反映させている。契約時に公的な苦情相談窓口もお伝えし、意見や希望は家族会・カンファレンス・面会時に和やかな雰囲気の中で自由な意見交換ができている。要望等があるときはすぐに会議で話し合い、改善案を出し気持ちに応えられるようにしている。連絡ノートで出た意見も会議にあげるようにしている。	個別のポストメールを作って日頃の様子を写真やコメントなどで伝え、連絡票、面会時、電話などで意見や要望を聞き、苦情相談窓口や担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定めている。	
11	花	(7) 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の要望・相談窓口や第三者委員を設けていることを重要事項説明で行っている。玄関に要望箱を設置していることもお伝えしている。ユニットに苦情要望への対応の体制について掲示し見て頂けるようにしている。要望について話し合い対応方法や結果を回覧しサービスに繋げている。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	風	(8) 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや月二回のユニット会議において職員の意見を聴く機会を設けている。リーダーは職員から意見や提案があった場合管理者や代表に報告し、運営会議や三グループのリーダー合同会議等で議題にあげ反映させている。グループホーム独自の個人記録用紙やアセスメント表の改善等をした。	代表者や管理者は、毎月、リーダー会議を開催して職員から出た意見や提案を検討し運営に反映させるように努めている。	
12	花	(8) 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回のユニット会議や月一回のユニット合同会議で職員の意見や提案について話し合っている。また、月一回三グループのリーダーが集まり運営者に報告・相談をしている。日頃より勤務シフトや個別のケアについて意見や提案を聴く機会を設けている。		
13	風	就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	グループホームの人材として、人間として、家庭人として優れた人が望ましいと考え一人ひとりの能力を見極めて業務にあたっている。能力や資格に応じた手当もある。月リーダーや各役割分担をし、担当となることで自信や向上心に繋げている。ノー残業週間もある。疲労を残さずストレス軽減に取り組んでいる。		
13	花	就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	勤務・公休希望についてはなるべく取り入れてシフトを組むように配慮している。適宜休憩も取るようにしている。業務終了後30分以内に帰宅できるように声を掛けている。また花見や忘年会はストレス発散の場になっている。		



グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人や新任研修のマニュアルを作り指導している。法人では月二回の法人の勉強会や月一回のグループホーム独自の勉強会を実施しており、職員も積極的に参加している。また、外部研修の機会もあり研修後は速やかに勉強会に取り入れ職員全員が理解できるようにしている。外部講師の介護アドバイザー青山先生による実技講習にも参加し具体的な介護技術を身につける取り組みをしている。	毎月法人の内部研修や事業所の内部研修を行ない、時には外部から講師を招いて全職員に研修の機会を提供している。外部研修は勤務の一環として参加し、復命研修をしている。	
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を始めとして新任研修、月二回の法人の勉強会に参加している。ポイント制があり出席者・講師にはポイントが付くようになっている。法人は介護福祉士・介護支援専門員等の資格取得の助成を行っている。またグループで必要な資格研修にも多くの者が参加できるように職員の育成に取り組んでいる。		
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にグループホーム連絡会があり施設見学や勉強会、交流会に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。運営推進会議の際近隣のグループホームをお招きし情報交換を行っている。		
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に県宅老所、グループホーム協議会やグループホーム連絡会があり、施設見学や勉強会、交流会を通じサービスの質の向上に努めている。運営推進会議の際近隣のグループホームをお招きし情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16	風	初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談や見学の機会を設けている。その際、お茶を飲んだり話をしたりして利用者様の思いを聴き、利用するに当たっての不安を解消するように努めている。ご家族から生活歴を伺い寄り添い表を作成している。お若い頃のことや興味のあること等を知ることによって日々の会話の中で馴染んで頂くためのきっかけ作りとしている。		
16	花	初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の時に施設の中の様子や居室を見てもらい心配なことはないか利用者様の不安を聴く機会を設けている。また、家庭訪問もしており馴染みの物を持って来て頂く等してお部屋作りにも活かしている。担当者を決め話し相手や相談相手になれるようにしている。		
17	風	初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスの問い合わせには法人相談員が丁寧に対応している。見学もされており、管理者・リーダーは相談員と調整してご家族の思いを聴く機会を設け、その思いを受け止められるよう連携している。また担当職員をすぐに配置しお話等も聴けるようにしている。		
17	花	初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族に見学して頂き、どのような場所で生活するのか知ってもらい心配事やご希望等を聴いている。管理者、ユニットリーダーを主としてご家族よりお話を伺う機会を作っている。		
18	風	初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・法人相談員・ケアマネ・管理者が連携を取り、生活の場所としてグループホームの利用がいいのか、老健や在宅での支援はどうか等、現在どういう状況でありどのような支援が必要なのか話しあっている。、ショートステイ等他のサービスの情報も提供している。		
18	花	初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族からお話を伺い、管理者・ケアマネ・相談員・職員が連携を取り適切なサービスが無理なく行えるよう努力している。法人施設で入居を待たれている方も多く、無理のない適切なサービスが受けられるように支援している。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	風	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症になられても日々の関わりの中で「個性」「できること」「教わること」が沢山あると知り、利用者様から白菜づけ・味噌作り・梅干作りや料理の味付けなど教わりながら共に支え支えられる関係づくり築けている。		
19	花	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意とされることや好きだったことをご家族から伺い料理、花や野菜のお世話など利用者様が主役となられる場面を多く設け、暮らしを共にする家族のような関係を築くことを大切にしている。		
20	風	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	風花メールやアルバム・居室のコルクボードに飾ってある写真等から日常の様子を見て頂いたり、日々の暮らしの出来事や気づいたことを細かに報告してご家族との関係を築き一緒に本人を支えていくようにしている。面会時に繰り返し要望や気づきを伺っている。		
20	花	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日々の暮らしの出来事や気づいたことを面会時や連絡帳、電話等で報告しご家族のご意見や気持ち等を大切にしながら共に考えていくようにしている。ご家族と一緒にドライブ・散歩に出かけている。また、利用者様が体調不良の時にはご家族の希望でクリニック受診を付き添うこともある。		
21	(10) 風	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	女学校時代からの友人も訪ねて来られ和やかな時を過ごされている。行きつけの洋品店等に行かれた折には馴染みの人とお話をされている。外出・外泊・面会はいつでもよいことを伝えており定期的にお里帰りをされ、ご家族とゆっくりされる方もおられる。	家族や知人が参加できる交流行事を開催したり、買い物、墓参り、自宅訪問、お見舞い、行きつけの美容院や洋品店、スーパーに出かけて、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21	(10) 花	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーや近くの公園に行く機会を作ったり、家に立ち寄りたりもしている。友人や知人、老人会や婦人会の役員をされていた時の方も気軽に面会に来られ一緒にお茶を飲んだりされている。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	風	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調不良や介助の必要な方に対して気遣いをして下さる利用者様がおられる。体調に考慮しながら家事全般を利用者様同士で協力しながらされている。仲の良い利用者様の居室と一緒に訪室したりして利用者様同士の仲間づくりや場面作りをさりげなく支援している。		
22	花	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士でお話をされていたりお部屋を行き来しお互いを心配しあう場面も多くみられる。時には職員が間に入り関わりがとれる環境をさりげなく支援している。食事の席も相性を考え配置を考えている。二ユニット合同の行事もあり普段関わりが少ない利用者様同士がお話できる場面を作っている。		
23	風	関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内施設に移られた方のもとへ仲の良かった利用者様が職員と一緒に遊びに行かれたりしている。入院された際にはお見舞いに行っている。退去されたご家族がたまに訪問して下さり一緒に思い出話をされて帰られている。		
23	花	関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際にはお見舞いに行っている。退去された方には思い出のアルバムを作成している。ご家族から「行事やお出かけの写真がたくさんあり施設の中で楽しく暮らしていたのが伝わった」と嬉しい言葉を頂けた。亡くなられた方の初盆にはお線香をあげにご自宅まで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情に気配りし、会話中に聞かれる思いを聞き逃さないようにしている。自己選択、自己決定できるような声かけに努めている。意思の疎通が困難な利用者様には表情や何らかのサインを見逃さないようにしている。伝えることが困難になられる前にケアの4つの柱の一つ「その人を知る」ことに努めている。知り得た情報はユニット会議等で議題にあげ話し合っている。	日々のかかわりの中で利用者の思いや意向の把握に努め、ケース記録に言葉や行動などを記録して職員間で共有している。把握が困難な場合は、職員間で話し合い本人本位に検討している。	
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事は気の合う方と一緒にゆっくりと食べて頂き職員も横に座っている。寄り添いや利用者様同士のお話の中から思いに気づけるように耳を傾けている。日々の行動や表情からサインを見逃さないようにしている。意思の伝達が困難な利用者様は担当職員が中心になり、気付きなどを他の職員に情報を伝え支援している。		
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時、家族会、ケアカンファレンス等の機会を利用して今までの生活環境や生活歴をご家族から聞ける範囲でお伺いしている。個人の情報を捉え寄り添い表を活用しケアに連動させている。聞きづらいことは十分配慮してお聞きしている。		
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時、家族会、ケアカンファレンスの機会を利用して一人ひとりの生活歴や生活環境についてご家族から話をお聞きしている。新しく伺えたことは記録に追加し把握に努めている。利用者様との話の中からも聞けている。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	風	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録用紙の見直しをして改善し、一日の過ごし方や心身の状態やご本人の言葉や生活リズムがわかるように詳しく記載している。生活記録、連絡ノートやアセスメント表等からも、できる事・できない事の現状把握ができています。		
26	花	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に看護・介護・ご家族からの言葉を詳しく記入している。職員の連絡帳にも気付きを記入し全員が利用者様お一人おひとりの状態を知るようにしている。生活歴からこれまでの過ごし方やお好きな事等を知ることでもその方らしく毎日を過ごして頂いている。		
27	風	(12) チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスに利用者様とご家族に参加して頂いて希望や要望を聞いている。利用者様のできる事・できないことを明確にし、その人らしく暮らしていただける介護計画を立案している。ご家族に介護計画を分かりやすく説明している。サインと印鑑をいただいている。	3ヶ月ごとに介護計画を見直し、毎月1回ケアカンファレンスを開催し、家族もケアカンファレンスに参加して職員と話し合い、本人や家族の希望、主治医の意見などを反映した介護計画を作成している。	
27	花	(12) チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	要望を利用者様に直接伺うと共に、利用者様が言われたそのままの言葉で個人記録に記入し参考にしている。ご家族には面会時や電話にて伺っている。ケアカンファレンスに利用者様やご家族に参加して頂き、気持ちを伺ったり職員間でも意見交換をし、介護計画を作成している。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	風	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・生活記録・連絡帳等に細かく記録し情報の共有ができています。個人記録は利用者様の言葉をそのまま記録して介護計画の見直しに活かしている。ご家族や利用者様の要望が適切に実行されているか一目でわかるように色分けをしている。記録物は出勤時に必ず目を通すようにしている。		
28	花	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の見直しをし、利用者様の様子、言葉、ケア内容、看護に関すること等詳しく書けるようにした。ご家族欄も設け要望や報告状況等もわかるようにしている。個人記録から日頃の状態を知ること、気づいたことは職員の連絡帳を活用し情報の共有化を図って介護計画の見直し等に活用している。		
29	風	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の希望により生家お連れしたり、選挙にも行って頂いている。遠くにおられるご家族の要望で係りつけ医の受診の付き添い、ご本人の希望により馴染みのお店にお買い物に出かけている。ご家族や知人へのお手紙も出せるように支援している。		
29	花	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中の利用者様のお見舞いに行っている。ご家族の希望により、入院されたご主人のお見舞いにお連れしたこともある。仏壇を持ってこられている利用者様で親族が集まれ居室で法要をされた方もいる。買い物や外食の希望にも応じている。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	風	地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館や文化会館での催し物等は利用者様の意向や趣味等に応じて援助している。法人祭りは地域の方も来られ多くのボランティアの協力がある。地域のふれあい祭りに利用者様と出展参加している。運営推進会議には警察署、消防署、老人会、自治会からの参加があり災害時の協力要請をしている。		
30	花	地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の希望や好みに応じて地域の公民館、文化会館での催しに参加している。近くに公園があり地域の方に気持ち良く使って頂けるようにトイレを掃除している。		
31	風	(13) かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回法人のクリニックで定期健診を受けている。又、入居前からのかかりつけ医(眼科・歯科・耳鼻科・精神科等)にご家族と協力して通院を続けておられ、情報伝達をして適切な医療を受けられるよう支援している。定期健診に行く事が難しい利用者様には在宅総合診療を行っている。	全員が協力医療機関をかかりつけ医に希望している。月1回の往診や随時の往診があり、毎朝病状報告をしている。眼科などは家族と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
31	花	(13) かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一回法人のクリニックで定期健診を行っており、結果については利用料請求と共に郵便でお知らせしている。又、入居前からのかかりつけ医で治療を受けておられ、ご家族の希望で受診の付き添いを有料でしている。その際には利用者様の普段の様子もお伝えしている。		
32	風	看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム職員に看護師がいる。休みの場合は併設の看護師の協力があり、状態変化に早期対応している。法人の看護師が訪問し記録から利用者様の日頃の様子や健康状態を把握し医師との連携をとっている。		
32	花	看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニットに看護職が配置されており対応を相談しながら利用者支援している。毎日、病状報告をDrへ提出し併設の老人保健施設の看護師とも連携しながら対応している。		



グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	風	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様のサマリーを作成し職員からも病院等に様子をしっかりと伝えている相談員を通して主治医やご家族と相談して認知症が進まないように早期退院に心がけている。場合によっては、法人の介護老人保健施設でリハビリを受けてホームへ復帰されることもある。入院中はお見舞いに行っている。		
33	花	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は度々、面会に伺い安心して頂くようにしている。希望があれば入院されていてもお部屋をキープすることが出来る。主治医、相談員、病院関係者と情報交換も行っている。退院後には併設の老人保健施設でリハビリを受けてグループホームへ復帰もある。		
34	風	(14) 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針・対応マニュアルがある。早い段階からご家族・医師・看護師等と話し合いの機会をもち、意思の確認に心がけご家族と共に看取りをしている。最期の時まで尊厳を保ち出来る限り口から食べ物を摂って頂く「ワンスプーン」に努めている。家族に泊まって頂ける体制も整えている。有料で食事もお出ししている。	重度化や終末期に向けた方針を説明し同意を得ている。重度化した場合は早い段階から家族や主治医、訪問看護師と話し合い、方針を共有し、看取りのケアに取り組み、1年間に2名の看取りをしている。	
34	花	(14) 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から意向を伺い書面で説明・確認をしている。早い段階から利用者様のご様子をご家族、医師、職員と十分に情報交換し全員で方針を共有している。ご家族への意向確認も何度も行い、同意書も頂いている。住み慣れた場所で最期まで過ごして頂けるように支援している。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	風	(15) 事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	月に2回法人の勉強会があり、職員全員が事故防止や迅速な対応が出来るように学んでいる。マニュアルがあり誤嚥の対応として職員に実習とテストがある。AEDが設置しており使用方法の訓練を受け職員全員が急変時には対応できるようにしている。インシデント・アクシデント報告があり職員間でリスクについて検討し確認し合っている。	マニュアルを作成し、ヒヤリはっと報告書や事故報告書に記入して検討し、事例検討会も開催して一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の訓練を定期的実施している。	
35	花	(15) 事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	防災マニュアルや各種の緊急マニュアルがあり、法人の勉強会もある。誤嚥に関しては職員全員が個々に実技講習を受けている。またその方に合わせた食事(ミキサー・キザミ・ゼリー食)をお出ししている。インシデント・アクシデントで利用者様のリスクを把握し、その都度リーダーから指導がある。また三カ月に一度にユニット会議で具体的に事故例をあげ検討している。救急救命の講習も定期的を受けている。		
36	風	(16) 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災や地震の避難訓練を消防署・利用者様と一緒にけがを想定し担架役と運ぶ役に分かれけが人の処置などの指導を受けた。消火器は誰でも操作できるように訓練している。避難経路の確保やけが人を想定した実地指導での気付きや職員へアンケートを実施してマニュアルの見直しをした。運営推進会議の時に災害や避難場所等を話題にあげ協力を呼び掛けている。	年2回火災・避難訓練を行ない、スプリンクラーも設置している。水害被害の時は家族や近隣の方が毎日掃除に通い、お寺から飲料水の差し入れがあるなど、地域の協力を得ている。	
36	花	(16) 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災・地震を想定し大規模な防災訓練を利用者様と共に行っている。夜間想定もあり具体的に避難経路や避難場所、搬送方法等を確認している。スプリンクラーや消火器等は完備している。運営推進会議の際自治会、消防署、消防団、近隣の方々と台風の避難場所や備蓄について話題にあげ協力を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルがあり見直しもしている。ボランティアや実習生の受け入れ時にも説明している。ご家族には契約時、室名札や写真掲載許可の署名を頂いている。記録物は所定の場所に保管し、代理人の方しか公表していない。接遇委員会の接遇研修を全員が受けており、節度のある言葉遣いや姿勢に日頃から取り組んでいる。	マニュアルを作成し、法人の接遇研修や接遇委員の指導を受けて、人格を尊重し誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。記録類は事務所に保管し取り扱いに注意している。	
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを作成している。記録等は所定の場所に保管しており代理人の方には公開していない。風花メール、インターネット等の写真掲載等も同意を得ている。接遇委員会より丁寧な言葉遣いや一言挨拶、語尾等の一年目、二年目研修があり、受けている。受容、傾聴の姿勢を常に意識し対応している。ボランティアの方にもしっかりプライバシー保護について伝えている。		
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や入浴等でも利用者様が決定できるような声かけに努めている。献立やおやつ、飲み物等好きな物を用意し選んで頂いて利用者様の希望が聞きだせるようなコミュニケーションをとっている。移動美容室ではご本人の希望でカットや染めをしておられる。		
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも利用者様が決定できる場面を作っている。職員の都合にあわせて入浴の時間、おやつ、衣服を選んでもらう等、色々な場面で選択肢を提案し自分で決めて頂いている。行事計画にも利用者様の希望を反映している。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	風	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご家族や利用者様に好きな食べ物や得意とされること等を伺っている。折り紙、俳句、習字、読書等ご自由にされている。個々のペースに合わせて起きておられる。入浴時間や大好きなテレビや本を読まれたり、昼寝等ご自由に過ごされている。好みの新聞をとられ朝一番に読まれる方もおられる。		
39	花	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・起床・散歩・入浴等今までの生活習慣と利用者様のペースに合わせた生活ができるように支援している。日々の寄り添いの中で利用者様の希望やお好きな物を伺い、パンやお寿司、海老フライ等多くの物を献立に取り入れている。本をよく読まれる利用者様にはお好きな本や新聞等が読めるように支援している。		
40	風	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装については利用者様の好みもありご自分で選ばれている。汚れや重ね着等で援助が必要な場合は誇りやプライバシーに配慮しながら援助している。ご家族から外出用として季節にあった服装や帽子等を持って来て頂き、その人らしい身だしなみを支援している。馴染みの美容室に行かれる方以外は移動美容室を利用されカット・カラー・顔そり等されている。ユニットで職員による美顔を楽しまれ、マニキュアやお化粧をされる利用者様もおられる。		
40	花	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った帽子、好みのバッグ、ワンピース等に替えられ外出されている。朝の整容・整髪も支援している。昔から行きつけの美容院に行かれる方もおられ、行く事が難しい方は毎月、移動美容室が来られるので利用されている。お化粧等もして頂いている。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時に担当が横に座り会話の中から食べたい物がないか伺い、一緒にスーパーや地域の新鮮市場に買い物に行き料理を教わりながら作っている。昼食は厨房より配食があり行事食は楽しみにしておられる。おやつの際に目の前でケーキをデコレーションしてもらい食べて頂くこともある。バイキング方式の昼食も企画したり、回転ずし、ファミレス等にも行かれている。毎日の準備や片づけは一緒にしている。	昼食以外は事業所で調理しており、食事は美味しいと好評で利用者は楽しそうにお手伝いをしている。3ヶ月ごとに厨房職員の調理実演もあり、目の前で魚をさばいたり、天ぷら、にぎり寿司、ケーキ作りなどを見て楽しんでいる。	
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は法人内の厨房から配食があり、朝夕の食事は利用者様と一緒に調理している。お店へ一緒に行き新鮮な野菜の見極めを教わりながら買い物をしている。厨房職員の出張料理があり、目の前で作る食事はとても喜んで頂いている。ご家族が面会に来られた時にはお母様が作られた海苔巻と一緒に食べて頂いた。昼食を依頼され居室でお話されながら一緒に食事を楽しまれることもある。また、天気の良い日にはウッドデッキで気分を変えて召し上がって頂く等楽しい食事となるような工夫をしている。		
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に2回管理栄養士により、その方に合った食べやすい食事の指導を受け偏りがないようバランスの良いメニューを考えている。全員食事・水分摂取量を記録しているが、体調不良になられた時は細かいチェック表を使い医師に報告・相談・指導を受けている。一人ひとりの状態や嚥下能力、習慣に応じた支援をしている。一日1400カロリーの食事を目標にしている。月1回の体重測定は体調変化の目安の一つになっている。		
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量・水分量を生活記録に記入して体調管理に努めている。毎月体重測定を行い医師に報告、助言を頂いている。月二回管理栄養士に一人ひとりの嚥下状態や食事内容を見てもらい指導してもらっている。ミキサー食・トロミ食・ゼリー食のアドバイスがあり、味付けの方法も指導を受けている。法人専属の相川先生より季節の料理の情報がある。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	風	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師による義歯の調整や歯科衛生士による口腔ケアを受けられる利用者様もおられる。歯科衛生士からの指導説明書を参考に食後や入眠前に歯磨きの声かけをしている。又、困難な利用者様には義歯の洗浄や口腔ケアを支援し清潔保持に努めている。曜日を決め義歯を洗浄液につけている。肺炎や病気の予防、ADLの向上に努めている。その方に合った歯ブラシを使用し、月1回交換している。		
43	花	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のケアは利用者様のできないことをお手伝いしている。ポリドントを使い、適宜消毒している。歯ブラシは形状の確認をして適宜交換している。歯科医師の往診もあり、義歯の調整や歯科衛生士から定期的な口腔ケアも受けておられる。勉強会でブラッシングの指導を受けて口腔ケアに活かしている。入眠前に義歯をお預かりしている利用者様もおられる。		
44	風	(19) 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄ができることが大切と考え6カ月間排泄パターンを調べトイレ誘導を行うことで一回でも多くトイレで自力排泄が出来るように取り組んだ。リハビリパンツから布ショーツになられたり、全介助の方もトイレ誘導することでパットの汚染が無くなってきている。	排泄の自立に向けた取り組みを行ない、排泄パターンを把握して声かけや寝具を工夫し、リハビリパンツから布パンツになったり、トイレでの排泄の自立ができた利用者など、4事例の研究発表をしている。	
44	花	(19) 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表に記入し、お一人おひとりの排泄パターンを把握した。適切な時間にトイレ誘導することで一回でも多くの自力排泄が出来るよう取り組み最期まで尊厳のある支援に努めている。立位が難しくベッドでパット交換していた方もこの取り組みでトイレでの排泄が出来るようになった。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	風	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や繊維質の多い物、乳製品などをメニューに取り入れている。栄養管理指導時に管理栄養士に相談しオリゴ糖、ブルーベリー、水分量等お一人おひとりに合った指導を受けている。ラジオ体操や散歩等適度に体を動かす機会を作ることで便秘予防につなげている。		
45	花	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い物、乳製品、オリゴ糖等を取り入れたり、体操やお散歩、家事等で適度に動かすことで便秘解消につなげている。水分摂取にも心がけている。		
46	(20) 風	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は14時からとしている。寝る前に入浴される方もいる。気の合う方と二人で入浴、法人内にある露天風呂も利用して楽しませている。いつも一番風呂を希望されている利用者様には一番に声をかけている。お一人おひとり好みの温度をお伺いしゆっくり入浴して頂いている。足浴されている方もおられる。	入浴は毎日14時から21時まで可能で、2名が夕食後に入浴している。時々柚子湯や入浴剤湯にしている。入りたくない人には仲の良い方との入浴を勧めたり、足浴、衣服の着替えなどで支援している。	
46	(20) 花	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は14時～21時とし、希望の時間に入れるようにしている。一番風呂がお好きな利用者様には一番に声をかける等、希望やタイミングに合わせている。菖蒲湯・ゆず湯・入浴剤を使用し好みの温度に調整して気持ちよく入浴して頂ける様に工夫している。気の合う方と一緒に入られたりしている。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	風	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて休憩や昼寝等自由にして頂いている。季節に合った寝具や室温、湿度に気をつけ、夜「眠れない」と起きて来られる利用者様の話し相手になったり、「おなかはずいた」と言われたら軽い食べ物やお好きなお飲物をお出しして眠れるように支援している。		
47	花	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた個々の寝具を使用して頂き安眠できるようにしている。夜更かしの習慣のある方にもご自由にして頂いている。ゆっくり昼寝をして頂けるソファが多数ある。		
48	風	服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	予薬マニュアルを作成し手順に沿って行っている。お一人ずつに手渡しし確実に飲まれたか最後まで確認している。月2回薬剤管理指導で薬剤師より薬の効能・副作用・用法等の指導を受けている。状態の変化が見られた時は医師に状態を伝え見直しをしている。常に医師・看護師・薬剤師と連携を図っている。		
48	花	服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬についての情報がもらえ、服薬時間や副作用についても確認できている。服薬は手渡しし飲まれるまで確認している。薬剤管理指導時に体調や服薬状況を伝え薬の形態や飲み方について指導を受けている。新しく処方された薬は職員の連絡帳と生活の記録で職員全員が把握できるようにしている。		



グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を踏まえ地域で開かれるコンサート・展覧会・習字展・押し花展に行く等文化的な生活を支援している。また法人や外部の習字展に出品されている。料理や野菜作り等利用者様に感謝の言葉を伝えながら教えて頂いている。花の好きな方は庭に咲いた花や、ご家族が持って来られた花をリビングに飾ってくださっている。お寺行事、お祭り、季節のお花見に行っている。歌の好きな方にはカラオケを楽しんで頂いている。	年4回の家族会行事(一泊旅行、バーベキュー、花見など)、家族や知人との交流、犬猫とのふれあい、コンサート、ハーモニカ吹き、花見、ドライブ、買い物、外食、芋掘り、食事の準備など、楽しみごとや活躍できる場面を沢山作って支援している。	
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	担当職員と一人二人でコンサート・展覧会・お隣の甘味処「古粋」で甘い物を楽しまれている。日用品や服の買い物に行かれたり、季節の花を見に出かけたりと気晴らしの支援をしている。得意な家事や趣味等、日常の様々な場面で役割や楽しみ事となるように支援している。		
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・外食・買い物・四季の花見(桜・つつじ・紫陽花・菖蒲・バラ・コスモス・梅)等頻繁に外出の支援をしている。車いすやリクライニング車いすの方もリフト車を利用し外出できている。車酔いで遠出が無理な利用者様には周辺のお散歩にお誘いし季節の風を感じて頂いている。隣の和風喫茶では気兼ねなくゆっくり過ごせるようにと席をセッティングして下さっている。	散歩やドライブ、花見、外食、近隣の文化会館で開催される催しなどに気軽に出向くなど、その日の希望にそって外出をしたり、墓参りや法事、外泊などは家族の協力を得ながら外出の支援をしている。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花の好きな利用者様には四季の花、桜・コスモス・菖蒲・紫陽花・バラ・梅等を見に出かけたり花屋に行き好みのお花を買ったりして頂いている。また、買い物・ドライブ・外食に出かけられるように支援している。近所の神社は散歩コースになっている。誕生日等特別な日に担当職員と一対一のお出かけもしている。地域で開催されるほたる祭りにご近所の方と夕方から出かけている。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	風	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る利用者様はご家族と相談し個人で持って頂いている。希望を伺い、自動販売機やスーパーに買い物に行く機会を作りご自分で支払いが出来るよう支援している。		
51	花	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売・パン屋さんが来られた時は思いおもいに買い物を楽しんでもらっている。お金を自分で持ちたいと希望される利用者様にはご家族と相談して少額を持って頂き買い物の折、支払いをされている。		
52	風	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話があり自由にかけている。両替が必要な時には支援している。遠くにおられるお子様へはがきを出される時には出来ない部分をさりげなく支援し、思いに添えるようにしている。ご家族からの返事を楽しみにされ届いた返事を嬉しそうに見せて下さる。外出の際ポストに投函される方もおられる。		
52	花	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由にかけることができる、公衆電話を設置している。ご家族からも手紙やはがきが頻繁に来ており、手作りはがき(ちぎり絵、絵手紙)に返事を書いて出されている。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広々としたリビングには暖炉があり絨毯がひかれている。ソファには仲の良い方々がくつろがれている。天気の良い日にはデッキにパラソルをひろげて日光浴を楽しまれている。絵画や本棚、インテリア等にも配慮し文化的な生活支援を行なっている。中庭を囲む部屋は、竹の葉を揺らす風の音が感じられる。障子を通して月や陽の光を感じて頂いている。	明るく広い共用空間があり、居間や廊下のソファに座って外の景色が眺められ、調理の様子やテレビを見ながらくつろげる。季節の花や季節ごとの飾りが置いてあり、生活感や季節感を感じて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・洗面所・リビング・玄関などに花や観葉植物、正月・お雛祭り・七夕飾りなど季節を感じて頂ける飾り物を置いている。日本間の注蓮の窓からはブドウ・イチジク・グミ・金柑等のなりものの木が眺められ収穫を楽しみにされている。夏は朝顔で緑のカーテン、冬には炬燵を出し季節を感じて頂ける工夫をしている。玄関や廊下には絵が飾ってあり、文化的な雰囲気のもと椅子やソファを置きゆっくりくつろげる場所がある。		
54		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには仲の良い方同士でゆっくり過ごせるソファがある。のんびりと過ごされるお気に入りのソファもあり新聞を読みながらうとうとされていることもある。居室前には談話室があり思いおもいに過ごされている。座りなれた椅子にはお気に入りの座布団を敷きリラックスされている。笑い声もよく聞かれる。快適で心地よい場所作りを目指し細やかな心遣いに努めている。		
54		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ・食卓・テレビ・居室前の廊下にもくつろげるソファを置いている。和室もあり思いおもいに過ごして頂けるようにしている。気の合った利用者様同士が好きな場所でお話や本を読まれたり食事をされている。利用者様同士で居室の訪問をされ、ゆっくり過ごされている。		

グループホーム 風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に相談し利用者様と一緒に居室作りをお願いしている。自宅で使っておられた家具・道具・アルバム・テレビ・鏡台などを持ってこられている。掛けてあるカレンダーには面会予定の日や楽しみ事を記してある。面会時にくつろげる家具や畳が置いてある。	居室は広く、馴染みの家具や椅子、テーブル、ソファ、鏡台、仏壇などが持ち込まれ、洋服ダンスやエアコンが設置されている。家族の写真や利用者の作品を飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	
55	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使われていた道具や家具を持って来て頂きその方らしい部屋作りをしている。二名の利用者様が仏壇を持って来られている。笑顔の素敵な写真やご家族から届いた写真をコルク版に貼り居室に飾っている。利用者様はご家族や面会者とそれを見ながら「いつ撮ったんじゃろうか」と話をされている。手作りのちぎり絵や習字等を居室や廊下などに飾っており嬉しそうに見ておられる。		
56		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安全に過ごせるようにバリアフリーになっており、廊下やトイレには高さや握り易さに配慮した手すりがある。リビングや廊下・居室の床材は滑り難い物にしている。車椅子用のトイレはゆっくり座っていただける工夫や、介助に邪魔になる物の位置を変えるなどして改善し、広く動きやすいトイレになった。居室は引き戸になっている。		
56		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーになっている。トイレ・浴室・廊下には握りやすい手すりがある。トイレは一般用と車いす用があり利用者様に合わせて使用して頂いている。車いす用のトイレはバーを跳ね上げ式にし、手洗い場、棚を使いやすい場所に移動し環境整備に取り組んだ。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム風花

作成日：平成 22年 11月25日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	・運営推進会議に参加の方が、ボランティアで風花に来て下さる機会が増えた。多数で来て下さる時の対応が難しい。体調より参加できない利用者様への配慮が必要である。	・地域の方との交流があることで、利用者様の楽しみが増える。 ・一緒に楽しめる行事を考える。 ・体調不良の方への対応をしっかりとる。	・月の予定渡すことで利用者様やボランティアの方に負担がかからないようにする。 ・ボランティアの方の要望を聞き一緒に楽しめる時間をつくる。 ・気軽に立ち寄れるような雰囲気をつくる。 ・地域の催しの案内があった時には利用者様と共に参加できるようにする。 ・スタッフの勤務体制の調整をする。	12ヶ月
2	27	・利用者様も高齢になられ短期間に体調の変化がみられる事がある。モニタリングやプランの見直しが随時必要である。	・モニタリングを随時することで状態に合ったサービスができる。 ・アセスメント用紙を充実する。	・担当者や計画作成者が中心となり、必要であればケアカンファレンスを見直しをする。 ・アセスメント用紙に追加記入をし状態の把握に活かす。 ・ケース記録やスタッフの気づきをプランに活用する。	12ヶ月 (随時)
3	28	・年二回、ご家族へのアンケートを実施している。回答で利用者様の日常の様子がしっかり伝わってこないことが分かった。昨年一年間取り組んだが個人記録の記入方法の充実が更に必要と考えられる。	・ケース記録(個人記録)の見直しをする。 ・記入方法を定めることでしっかり報告ができる。 ・ご家族への伝達や記録物の開示の回数を増やす。	・ケース記録欄を介護、看護、ご家族に分けることで内容にそった記録にし分かりやすくする。 ・要望や報告の内容を記入し、経過や結果まで記入する事で誰もがわかる記録にする。 ・面会や家族会など機会がある毎にご家族へ開示する。	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。